

# 74 新破天荒



令和四年度より  
創刊  
第 2 号

## 新破天荒 セミフアイナル

七十四回生の皆さんへ。学年通信「新破天荒」もいよいよラスト前となりました。長かったようで、振り返ればあっという間だったような気がします。結構な「言いたい放題」であったかもしれないですが、いろんなアプローチで、皆さんだけでなく数多くの方々に励まして頂いたお陰で、何とかここまで辿り着いた気がします。

最後まで、自分の想いはしっかりと伝えます。  
ところで、約半数の生徒は、今月十八、十九日に実施された全国大学入試共通テストを経由した受験、共通テストを利用せず私立大学一般入試に臨むことになりました。  
この最終前の学年通信も手渡すことができない人もいます。この先の健闘を祈るばかりです。

また、残りの生徒は、この一ヶ月間、自分の責任と自由の狭間で、自身の責任ある行動と社会規範に基づいて、アルバイト等で社会常識に触れ、自動車教習所で新たな学びをすることになります。一見、自由を振りかざすことができますが、自由ほど時に窮屈であることを感じる場面もあるでしょう。

### 自由 対 責任

一度は本気で感じて、次のステージで活かすことができたと思います。

いずれにせよ、世間では大変痛ましい事故や事件が多発しています。兵庫県でも、高校三年生が自分に何の落ち度もないのに、登校中の自動車同士による巻き込まれ事故に遭い、ニュースの時点では意識不明の重体とのことでした。福島県でも同様の、大阪から受験に行っていた浪人生の死亡事故、数件の通り魔事件の悍ましいニュースなど、皆さんの身の回りも決して安全とは言えない世の中です。

どうか皆さん、二月二十七日水曜日には、いつもと変わるのではない姿や、様子で再会できることを一番に願っています。

卒業式の日が終了するまで(本当は三月三十一日までなのですが)、皆さんは姫路南高等学校の生徒です。あと二年半しか残らない姫路南高等学校の後輩たちのためにも、胸を張って「姫路南高校生の姿」を示して立派な卒業式の主役を演じてください。

過去に所属した学校では、ごく僅かな「自分流の自由」を優先して、自由登校中に髪を染めたり、自分のこれまでやってきたことを貶めるような行動をしてしまい、将来で「後悔の念」を語る生徒も少なからずおりました。

### 若さの勢い

で、今までの自分を失って卒業式を迎えた者もおります。

結果、三年間をともに過ごした仲間との卒業式という空間を失った者もおります。

今の時代「そんなことはあり得ない」かもしれませんが、

### 「自分だけの生活・卒業式」

ではなく

### 「仲間とともにする生活・卒業式」

であることを忘れずに、二月二十七・二十八日を迎えてほしいと思います。

保護者の皆様におかれても、あと二日しか残っていないお子様の姫路南高等学校生活に、ケチがつくことのないように、この一ヶ月間、

### 当たり前前の風景

を心掛けさせて頂きたいと思えます。保護者の庇護のもとで、逞しさをさらに身につけ、次のステップを正しく踏むことができる準備をした一ヶ月であることを、切に祈ります。

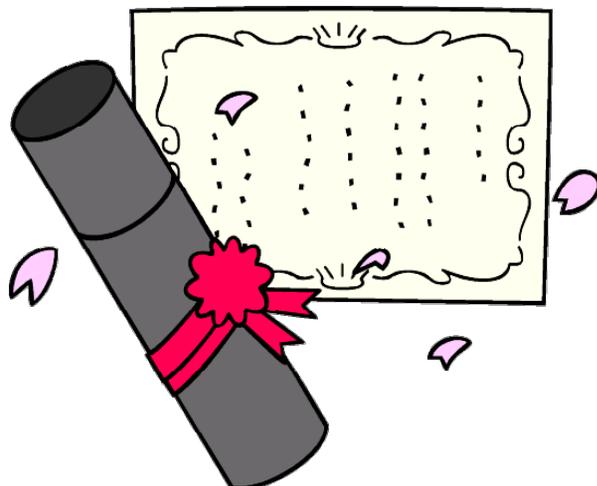
どうぞ、よろしく願いいたします。

## 二月の手定

二十七日(木) 卒業式予行・各種式典  
二十八日(金) 卒業式

高校入試関係で登校禁止の日

十四日(金)～十八日(火)



# 今月の 。。。。の 勧め

一月	「無駄」
五月	「諦めない」
六月	「捨てる」
七月	「チャレンジ」
一学期末	「さかのぼる」
九月	「テレビ」
十月	「大空間」
十一月	「無」
十二月	「こだわり」
二学期末	「信念」
一月	「探る」
二月	「自制する」
三月	「勇気を探す」
一年最終	
二一年	
四月	「悩むこと」
四月 2	「本気でぶつかること」
五月	「この世界の片隅を大切に」
六月	「主体性」
七月	「客観性」
一学期末	「ルーティーン」
九月	「スマホとの向き合い方」
十月	「詩に触れる」
十一月	「破壊する」
十二月	「想いを再生する」
2 学期末	「夢を目に触れるようにする」
一月	「アナログ」
二月	「きっかけ」
三月	「一度諦める」
二年最終	「失敗の感情で終わらない」

## 二一年

四月	「思うだけじゃ駄目」
五月	「目先の失敗に気付く」
六月	「いつか報われる」
七月	「いつもと違う努力」
一学期末	「してやりたい」
九月	「ごめんなさい」
十月	「プリテンド pretend」
十一月	「アピール」
十二月	「自己満足」
二学期末	「景色を広げる」
一月	「自分に鞭うつ」
一月末	「無駄な言葉を失う」

誤解がないように。「言葉を発するな」ではありません。発する時間を作る生活をする事です。要は、「無駄口」を叩いている暇がないほど、自分に対して「まだこれができる」、「これらをしておきたい」。言葉は自分の意識に「知識・表現」を擦り込むために使おう。一分たりとも、自分の行動を後悔することがないように

### 「時間を使え」

ということですが。ならば、「気持ち切り替える、リフレッシュさせる」ために吐く、一見無駄に思う行動や、発する言葉も、自分に「勇気をくれる」ものになります。姫路南高等学校生活における千数日のうちのあと僅か四十日余り。登校をしなくても、姫南生の想いを持って、誇りを持って、出し尽くしてほしい。国公立大学前期試験からの二週間。終焉を急がず、自分の可能性を絞り出す行動を望まずにはいられません。

# 共通テストを終えて

十八日土曜日、十九日日曜日の共通テスト本番を終えて、二十日(月)の自己採点の後の率直な感想を言います。

二学年辺りから、いや、一学年後半から、事ある毎に「先に責任をとる」と言う言葉を発して、頭を丸めることも多くあったと思います。もちろん、そこには叱咤激励以上に、カンフル剤的な感覚も最初がありました。

ただ、正直なところは、自分の経験上でも模試の取り組み、結果も、学習の雰囲気も、三学年主任としては、過去の姫路南高校の結果には到底及ばないであろうと、本当に覚悟はしていました。

結果は、チームとして次のステージ(国公立大学二次個別試験)での真剣勝負の闘いを、多くの生徒に十分チャンスがあるものとなりました。

決して楽な闘いではないですが、適度な緊張感と十分な自信を持って、この一ヶ月を取り組んでもらいたいものです。それ以前に、皆さんをもっと上手くやる気にさせる方法があったことをお詫びしないといけませんね。

二十四日金曜日には、担任の先生方、進路指導部の先生方と、皆さんの可能性を探るために検討会を行いました。

その会を受けての今週の面談だったので、担任の先生の話も含めてしっかりと考え、二月五日水曜日の出願締め切りに向けて、覚悟を決めてミスのない出願を完了してください。

# 探し物を 手に入れる旅へ

いよいよ七十四回生が出発です。四月には、それがどんな新しい舞台で自分を表現するのか。もう一息ですが、決して先を急がず、自分を見失わず奥歯をしっかりと噛みしめて、丸まった背中ではなく、少しだけ視線を上げる努力を保って、決戦の場所での活躍を自分の目前に描きましょう。闘うと決めた道に迷いはない。信じた道をいきましよう。

この道を行けばどうなるものか

危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし

踏み出せば その一足がみちとなり

その一足が道となる

迷わず行けよ 行けば分かるさ

アントニオ猪木

# 卒業式にあたり

諸々の係、式典での学年代表者が決まりました。お伝えしておきます。

## クラス代表者

- |     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 1 組 | 佐野 翔  | 野村 叶愛 |
| 2 組 | 宮本騎美生 | 柴原 綺良 |
| 3 組 | 柴田幸太郎 | 延 和奏  |
| 4 組 | 増田 佳帆 | 小笠原煌大 |
| 5 組 | 岸本 実久 | 樽榮 結愛 |

代表幹事

柴田幸太郎

## 卒業式関係

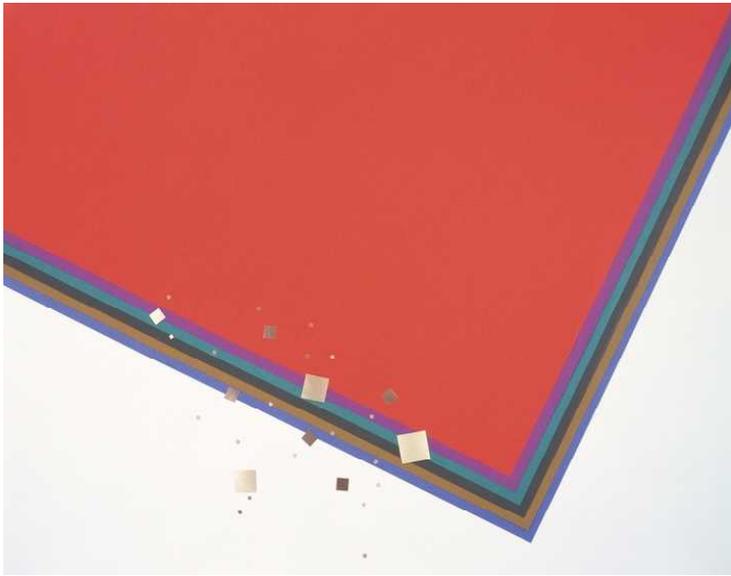
- |             |       |
|-------------|-------|
| 卒業証書授与 (総代) | 釜増 莉緒 |
| 卒業生答辞       | 佐田 埜衣 |

## 記念品関係

- |             |       |
|-------------|-------|
| 記念品贈呈       | 大力 優愛 |
| 記念品受領 (PTA) | 花井 柊仁 |
| 記念品受領 (同窓会) | 飯田瑠音乃 |

## 皆勤賞・ユーカリ賞関係

三年間皆勤賞は現在二十六名、ユーカリ賞は現在、選考中です。追って連絡をします。



## 七十四回生から学校へ 卒業記念品を紹介します

卒業式(生徒には予行でお披露目となりますが)で七十四回生が歩くことになる、赤絨毯3本と保管のためのカバーを贈呈させていただきます。  
おめでたい式での初お披露目となります。保護者の皆様、是非盛り上がる卒業式となりますことを期待して頂ければと思います。

学校生活として、残すは卒業式のみ。姫路南高等学校として、三学年が揃う最後の卒業式です。  
想いをしつかりと下級生に引き継いでもらえるように、下級生にとつて憧れの先輩となるように、意義深い最後の一ヶ月となるように、皆さんそれぞれが充実した一ヶ月としてください。

音とともに聴けば、勇気が沸いてくる曲です。曲のテンポとしては、私はこれくらいが精一杯。  
皆さんは、自分を勇気づける、勇気を湧き出させる唄とともに走り続けましょうね。

♪

「もしも」はなくて 「もう一度」もなくて  
「巻き戻し」も出来なくて  
夢の中でも 震える手は止まらなかつた  
言葉にならない 想像さえ追いつかない  
出会いと別れ  
自分自身で 思い知るしかないようなこと

なんてキツイんだろう  
これが生きると言うことなら  
すべて投げ出したくなる気持ち  
それでも抱えたら

さあ鐘を鳴らせ ちからふりしほれ  
それだけが  
今日を越えていく唯一の術なら 今は  
一日ずつ一日ずつ 響かせていくしかないから

いつか わかる日まで  
いつか 立ち向かえる日まで  
いつか ここまで来たって思える日まで  
言える日まで

さあ鐘を鳴らせ がんがん打ち鳴らせ  
それだけが  
どうにもならないこの気持ちと 歩く術なら  
そして 生きると誓え 生きると打ち鳴らせ  
また会う日まで また会える日まで

鐘を鳴らすから 鳴らし続けるから  
♪

最後に  
魚吹八幡さんの  
氏子巡りをしてみました

願掛けにもなりません、この冬休みに歩いて  
巡ってみました。姫路南高校の守り神と考えて  
理にはかなった話ではないですが。



朝日谷



丁熊見



西土井



糸井



和久



宮田



高田



坂出



田井



長松

天満



福井



坂上

魚吹八幡神社  
氏子巡りをしてみました



長松

宮内



平松



津市場



興浜



垣内



大江島



吉美



余子浜



新在家

